

# 岸田政権の原発増設、再稼働新方針に反対を!

## 一般質問で中川市長に求めました



9月議会一般質問で私は岸田政権が打ち出した原子力発電に関する新方針などについて取り上げ、中川市長の見解をいただきました。以下はその大要です。

**【橋爪】**8月24日、テレビのニュースを見て驚いた。岸田首相がエネルギー政策を検討する会議で、「次世代型原発の開発の検討をする」方針を明らかにしたからだ。11年前の東京電力福島第一原発の事故の原因究明もまだしっかりできていない、原発事故は汚染水処理を見てもわかるように収束はしていない。そうしたなかで、こういう方針を打ち出すとは、信じられない。これまで、既存原発の再稼働を推進する一方で、新増設、建て替えは「想定していない」としてきた方針の大転換だ。しかも、「既存原発の最大限の活用」を図るとして、すでに再稼働したことのある原発10基に加え、来年の夏以降、新たに7基を順次再稼働させていくという。この中には、東電柏崎

刈羽原発の6、7号機も入っている。さらに、これまで40年だとしてきた原発の運転期間をさらに延長しようとしている。私は原発から30キロ圏内の自治体の首長として新方針の撤回を求めべきだと思いが、原発政策の新方針に対する市長の認識を聞きたい。



**【クルマバイグマ】**キク科の多年草。漢字で「車葉白熊」と書きます。草丈は50から80センチ。十数年前、吉川区内の林道で初めて出会いました。花期は9月～10月です。初めて見たとき、「これは線香花火だ」と思いました。花の色は白です。花言葉は「幸せな人生」「用心」「予防」など。写真は9月25日、吉川区小苗代にて撮影しました。

**【中川市長】**新方針は、政府の「GX実行会議」において表明されたものだ。今後、検討を進める「日本のエネルギーの安定供給の再構築」に必要となる方策の一つとして示されたものであり、今後、専門家等の意見も踏まえながら、当会議の中で議論されるものと認識している。方針で示された内容自体がこれから具体的に検討に入るものであるため、現時点では、私自身の考えを示すつもりはない。

**【橋爪】**市長は公約の中で、原発については、①原発事故の徹底検証なくして再稼働は議論しない、②東日本大震災、福島第一原発の実態の精査が最優先、③再生エネルギー普及が重要、④原発は運転期間制限40年で廃炉へ。④原子力災害の避難計画をつくり直し、の4つをかかげた。政府の新方針の内容は、これから議論するのかもしれないけれども、例えば原発のその運転期間の延長の問題一つとっても、市長が公約に掲げたことと全く違う。みずからの公約に照らしておかしく、国に言うべきだ。やっていただけですね。

**【市川防災危機管理部長】**まだ具体性のない中で、その是非をここで論じること、考え方を示すことはできない。

**【橋爪】**市長は答弁の中で、「安全性を前提にして云々」という話をされていたが、我々はそう見ていない。それは共産党だけじゃなく、多くの市民、県民もそうだ。例えば新潟日報の社説、「原発政策転換、安全性の議論置き去りだ」と批判している。柏崎刈羽原発という世界最大の原発を持つる県民の立場に立てば、「私は今回の政策については駄目だ」と言うべきだ。今の政府の考えている方向でどんどん進んでしまいますよ。市長、あなたの公約に照らして、今回の新方針についてきちんと撤回を求める意思はありますか。

**【中川市長】**現在までに、政府と東京電力が、福島第一原発（の事故）、柏崎刈羽原発の中でやってきたことについて十分に検証はされてなく、市民が安心だ、安全だと思える状況には私は立っていない。ただ、今回のGX会議の方針については、今後の決定事項に即してコメントを出したいと思う。



**【橋爪】**政府の新方針、あなたの公約との関係で、矛盾点はありますか。

**【中川市長】**GX会議で示された内容については、今おいて後議論が進んでいくものと認識している。現時点では申し上げられない。

**【橋爪】**あなたは公約で、運転期間については延長は反対という立場だ。福島の事故については精査が必要、検証なくして、再稼働の議論ないとしている。その通りだと思う。新方針はあなたの公約と矛盾しています。自信を持って、市民の前に、私は、今回のことについては反対ですと言ったんですよ。

はしづめ法一の  
活動レポート

**No.2079 2022.10.2**  
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第七二六回

### 母が笑った

じつは、母が退院するとき、病院のお医者さんから、「長く持って一週間でしょうね」と言われました。

それだけに退院後は一日一日がとても貴重で、母の部屋に入るたびに顔を見て、息をしているかどうかを確認しています。

夜、一緒に寝ていても大きないびきをかいているうちはいいのですが、呼吸が止まると、再開するまでが心配で、緊張します。呼吸が止まっている時間が一〇秒くらい、呼吸が止まるまでが心配で、緊張します。呼吸が止まるまでが心配で、緊張します。呼吸が止まるまでが心配で、緊張します。

正直言って、入院時は、面会した時の数分か母の様子を見れませんでした。家にいるときは、家族の者が母のそばにいる時間が長いので、いろんな発見があります。

例えば、こんなことがあります。母がかわいがっていたネコが母の部屋に入ったときのことです。ニヤーン、ニヤーンと大きな声で鳴くと母は喜び、笑顔になったというのです。もう二度と笑うことはないだろうと思っていただけに、長女から、この知らせを聞いたときは、万歳をしたくなるほどうれしくなりました。元気な頃、いつも電動椅子の上から背中を「イコイコ」となでていたネコのことがかしつかり母の記憶に残っていたのでしようね。

甘酒を含んだものを口の中に入れてときも母は笑顔を見せたといいます。小さなスプーンでほんの少し、口に含ませる程度だったのですが、それでも母にとっては、最高のご馳走だったのでしょうか。

甘酒は母の好物の一つ。わが家ではいつも冷蔵庫に入っていて、母は時々飲んでいました。ですから、病院で、お医者さんから、「ここまで来たら、飲みたいものがあるれば、飲ませてもいいのでは」という言葉を聞いたとき、ぜひ甘酒の味を味わってほしいと思っていました。この願いは、わが

家に来ていただいている看護師さんの協力で実現しました。

自宅に戻り、一番切なかったのは、一週間後の二三日の夜のことです。お医者さんから「持って一週間」と言われたこともあり、夕方、家族の者から、「おばあちゃん、おかしい」と連絡を受けたときは、ついにその時が来たかと緊張しました。

緊急事態に駆けつけて来てくださった看護師さんは母の状態を確認し、帰りに、「明日の朝、八時半に来ます。それまで持ってほしいですね」と言われました。それほど事態は深刻だったのです。

この日、母は夜の二時ころまで両目を開けていました。その後は目をつぶったままの時間帯が長くなりました。母のベッドわきには私と大湯区在住の弟、そして長女と三人が毛布などを持ち込んで母を見守り続けました。

母の呼吸が止まっているとき、窓の外からは虫の鳴き声がよく聞こえてきました。母の左手は私、右手は弟がずっと握り続けました。深夜の二時過ぎ、母の手を握り続けるのも疲れたので、手を離し、スマホを使って歌謡曲を流しました。三橋美智也の「夕焼けとんび」「達者でな」です。亡き父が田んぼや牛舎で仕事をしているときによく歌っていた曲です。母からの反応はありませんでしたが、しっかりと聞こえたはずで

母の病状は退院後の八日目から、それなりに安定しました。そして数日後、水や甘酒を含んだものを口に入れもらった時、母は何と「うんめー」と言ったのです。まさに奇跡的な出来事でした。ひよっとすると、三橋美智也の「オーラ オーラ 達者でな」という歌が効いたのかも知れませんが、容態がしばらく安定していれば、そう遅くない時期に母の「ありがとね」という言葉も聞けるかも……。

## 安倍元首相の「国葬」で市民団体が要請行動



安倍元総理の「国葬」を前にした26日、市民連合・上越、上越地区平和環境労働組合会議、上越九条の会、新日本婦人の会上越支部の4団体が上越市長、教育長に、安倍元首相の「国葬」に反対し、市民への弔意表明などを強制しないことを求める要請を行いました。この要請行動には、牧田、平良木両市議と私も同席しました。



要請は、①安倍元首相の「国葬」に反対し、国に対し中止を求めること、②違憲・違法の「国葬」に参加しないこと、又これに関連して公費の支出をしないこと、③市の施設での半旗掲揚・黙禱要請など、市民への事実上の弔意強制を行わないこと、④各学校の教職員や児童・生徒に対して、教育活動中での弔意表明の訓話、半旗掲揚、黙禱要請など、いかなる形であろうと弔意の強要につながる通知・要請・依頼・働きかけを行わないこと。の4項目。市

民連合・上越の片岡豊事務局長がハ木智学理事に要請書を手渡しました。ハ木理事は、「中川市長、早川教育長に伝える」とのべました。要請文を渡した後、市民団体代表などが木田庁舎など市の14施設で半旗を掲げることとした理由を問うとともに、学校などで「国葬」に合わせて児童生徒向けの講話を行うことがないよう訴えました。ハ木理事らは「閣議決定を受けて、行政機関として弔意を示すことにした。講話などについてはやるとは聞いていない」と答えました。

## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月21日(水)	9月28日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.047	0.063
高士分遣所	0.047	0.053